

推計手法のシームレス化について —経済構造実態調査の利用—

令和5年10月30日

統計委員会国民経済計算体系的整備部会

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

本日のご報告内容

◆ JSNAの推計精度向上には、一次統計から国民経済計算の推計におけるそれぞれの段階において、提供するデータの差異を縮小させることが重要、との考えから、第Ⅲ期基本計画の期間において、それぞれの推計段階での利用データの整合化(いわゆる「シームレス化」)を、これまでも進めてきたところ。

✓ 第一次年次推計から第二次年次推計への改定に係る影響が大きい品目を中心に検討し、第一次年次推計における基礎統計の組替方法の改善(民生用エアコンディショナー、携帯電話機等)、業界統計の利用開始(サービス用機器)、第二次年次推計における基礎統計を基準年推計と統一化(鋼船、肉加工品、清涼飲料水)など、財を中心とした改善を進めてきた。

◆ 本年3月に策定された、第Ⅳ期「公的統計基本計画」においても、これまで同様、シームレス化に向けた取組を進めることが盛り込まれた。

- JSNAの2020年基準改定(2025年末公表予定)における基準年(2020年)推計は、2020年産業連関表(以下「2020年IO」)を元に推計。2020年IOは、サービス分野については、新しく策定した「生産物分類」に基づき調査を行った「令和3年経済センサスー活動調査」(以下「活動調査」)を用いて作成する。
- 令和4年から実施された、いわゆる第2期の「経済構造実態調査」(以下「KKJ」)は、サービス分野について生産物分類を用いるなど、活動調査の中間年版としてシームレス化が図られている。
- 本年末に公表予定のJSNA2022年年次推計(対象年は主に2021及び2022年)において、2021年を対象とするKKJが利用可能となったことから、基準年と年次推計のシームレス化を目指し、支出側GDP推計(コモディティ・フロー法)のサービスの出荷額推計における、KKJの売上高情報の利用を開始。本日はその内容をご報告するもの。

経済構造実態調査の活用について

【経済構造実態調査の活用の方向性】

- JSNA2022年年次推計における第二年年次推計（対象は2021年）のサービス分野の出荷額推計において、従来「サービス産業動向調査」及び「特定サービス産業動態統計調査」を利用してきた約100品目を対象として検討。
- その中で、JSNAの年次推計の推計品目と活動調査及びKKJで利用可能な生産物分類の品目のカバレッジが一致する品目については、原則、KKJを利用する（注1、2）。

		主な品目
利用	約 40品目 (約 3割) * () 内は金額規模	「廃棄物処理」「旅行・その他運輸附带サービス」「宿泊業」「情報処理・提供サービス」「映像・音声・文字情報制作」「新聞」「出版」「建物サービス」「その他の対事業所サービス」「広告」「映画館」「スポーツ施設提供業・公園・遊園地」「遊戯場」等
見送り	約 60品目 (約 7割)	「飲食店」「持ち帰り・配達飲食サービス」「民間放送」「有線放送」「ソフトウェア業」「不動産仲介・管理業」「不動産賃貸業」「自動車整備業」「興行場・興行団」「洗濯業」「理容業」「美容業」「浴場業」「冠婚葬祭業」等

(注1) 「活動調査」及び「KKJ」の前年からの伸び率を利用して推計

(注2) 「活動調査」及び「KKJ」の生産物別サービス収入には、個人企業分が含まれないため、今回は、「飲食店」など個人企業の割合が高いと考えられる生産物については、活用を見送った。

JSNAの2020年基準改定に向けた検討

◆今回は、2015年I0に基づく現在のJSNAの品目分類と統合的な品目について、KKJの利用を開始した。一方で、JSNAの推計品目と統合的でないKKJの品目については、KKJの利用を見送った。

【2020年産業連関表における対応】

- 前述のとおり、2020年I0は、サービス分野の生産物分類に基づき調査を行った令和3年活動調査を用いて作成されることから、より生産物分類と統合した部門となることが見込まれる。
- JSNAの2020年基準改定では、2020年I0を用いることから、JSNAの年次推計の推計品目と活動調査及びKKJで利用可能な生産物分類の品目の整合性が、より向上することが見込まれる。

(注) なお、2020年I0ではサービス分野のSUT体系移行に取り組み、2025年I0では製造業も含めた全面的なSUT体系移行に取り組むこととされている。

《JSNAの2020年基準改定における検討の方向》

- そこで、2020年基準改定においては、今回、採用を見送った品目も含めてカバレッジの確認や個人企業分の確認等を行い、改めてKKJの売上高の活用可能性を検討する。